

流山おおたかの森駅周辺地域における 市民参加型ワークショップの予備調査

客員研究員：齋藤伊久太郎（法政大学 兼任講師）

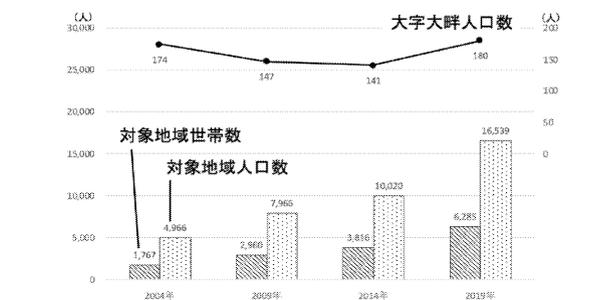
1. はじめに

流山おおたかの森駅周辺地域は、2005年8月に駅が開業して以降、現在も人口を増やし続けている(図1)¹⁾。この駅は、東武野田線(以下野田線)と首都圏新都市鉄道つくばエクスプレス(以下TX線)が乗り入れており、1日の平均乗降客数は、野田線が約5万人²⁾、TX線が約6万人³⁾注¹⁾である。駅の開業から約20年が経過しているが、周辺地域では現在も住宅整備、学校建設、道路拡幅など市街地の整備が進められている。

本研究は、この地域を対象地にまちあるきワークショップを行い、得られた知見をまとめることにより、今後の市民主体のまちづくりのための基礎的な資料の作成を行う。本報はその予備調査とする。対象地域で複数人によるまちあるきを行い、得られた知見を相互に共有し、ディスカッションを行った結果を考察する。加えて、本ワークショップにおけるリモート参加の試験的な導入に対する有意点や課題点を明らかにする。

2. 研究の方法

本研究の対象地を野田線とTXで区切られた周辺地域の西側地域とし、約5kmのまちあるきのルートを図上の点線で記す(図2)。昨今、ウィルスによる感染症の流行が著しいため、まちあるきからディスカッションに至る一連の行程をリモートによる参加も可能とする。現地参加者の内1人は、リモート参加者が有意義に参加できるようタブレット端末でリモート会議用アプリケーションを起動しながらまちあるきを行う。適宜、現地参加者とリモート参加者でコミュニケーションをとりつつ、流山おおたかの森駅から市野谷自治会館(以下自治会館)まで歩行する。その後、自治会館内においてディスカッションを行い、相互にまちあるきの際の気付きや、今後の周辺地域のまちづくりに関する意見交換を行う。本報では、まちあるきとその後のディスカッションで得られた知見をまとめた上で考察する。また、ディスカッションではリモート参加についても言及し、得られた意見や一連の流れを考察することによって、ワークショップにおけるリモート参加について検討する。



※この地域は、2020年より、おおたかの森西一丁目～四丁目、大字大群、市野谷の6町で構成されている。それ以前は、西初石5丁目、大字大群、大字三輪野山、三輪の山一丁目～五丁目、市野谷で構成されており、世帯数、人口数はこの9町の和を算出した。

図1. まちあるきエリアの人口および世帯数



図2. まちあるきルート及び大字大群地域

表 1. ワークショップの概要^{注 2) 注 3)}

実施日	時間	参加者	まちあるきルート	備考
2022年 1月29日	13:00-17:00	4人 (内2名リモート参加)	流山おおたかの森駅～市野谷自治会館	リモート会議システムとしてZoomを活用し、終始起動させたままワークショップを実施した。参加者は、筆者と流山市民3名で構成した。

3. ワークショップから得られた知見

ワークショップの概要を表にまとめる(表1)。ディスカッションでは、開発の進んでいない大字大畔地区^{注4)}とそれ以外の地区とでは大きな差があるとの認識で一致した。前者には、田畑や神社、民家の生け垣や庭木が散見されたのに対し、後者には緑が少なく店舗も一部に集約された結果、街に潤いが無いという意見が得られた。これに対し、移動スーパーや屋台などの展開、小中学校をコミュニティ形成のために活用することが提案された。一方、リモート参加については、実地から得られる情報に成約はあるものの、雰囲気はつかめることができた上、街を構成する要素の背景にある歴史的文化的などをwebで容易に調べられる優位点があることが挙げられた。

4. まとめと考察

本報は、流山おおたかの森周辺地域を対象地に予備調査として、ワークショップを実施し、得られた知見をまとめ、対象地域における課題を抽出した。こうした課題は、市民参加型まちづくりのなかで醸成していくことで、より地域の実情や住民の年齢層などの変化にも柔軟に対応できるものと考えられる。また、コミュニティの活性化において、小中学校の利活用は、これまでも多くの地域で行われており、対象地域においても有効であると考えられる。ワークショップにおけるリモート参加については、視聴覚以外の情報が欠如することに加え、実地における作業(フラグマップや模型の作成など)がある場合に大きな制約となる。しかし、在住者がまちを改めて概観し、ディスカッションへ参加する場合には、大きな障害とはならないことが今回のケースで明らかとなった。今後も様々なケースで検討を重ねたい。



写真 1. 上段: おおたかの森西地区、中段上左: 大字大畔地区、中段上右: おおたかの森西地区の開発地域、中段下左: 茂侶神社、中段下右: 天満大神宮、下段: 樹齢100年のシラカシとその周囲にある遊歩道

参考文献

- 1) 流山市統計情報
- 2) 野田線、駅情報(2020年度1日乗降平均): https://www.tobu.co.jp/corporation/rail/station_info/
- 3) TX線1日平均乗車人員(年度別)(2020年度1日平均): <https://www.mir.co.jp/company/number.html>

脚注

- 1) 乗降客数の算出方法として乗車人数を2倍した。
- 2) 感染症対策として以下の提示をした。「会場の常時換気/マスク着用の義務化/受付時の検温/手指消毒の実施/WS活動時も1メートル以上の対人距離の保持/共用物(マジック等)の使用前後における手指消毒の実施などを最大限に行い実施します。」
- 3) 当初の計画では、10数名の参加者ととともに、全員が現地に集合の上、まち歩きとディスカッションを実施する予定だったが、実施日の数日前より感染者数が全国的に急増したため、急遽開催形態を変更したため、今回は予備調査扱いとし、新たな形態の中でどのような結果が得られるかを検討することとなった。
- 4) 対象地域の人口が約3倍に増加している一方、大字大畔地区は、ほぼ横ばいに推移していることから、この地域の開発が進んでいないことが伺える(図1)